

第14回 神奈川県移動性(モビリティ)向上委員会

圏央道等の開通による効果

1. 既存事業の開通(完了)状況
2. 圏央道(茅ヶ崎JCT～寒川北IC、
海老名IC～相模原愛川IC)開通による効果
3. 圏央道(相模原愛川IC～高尾山IC)開通による効果
4. その他事業による主要渋滞箇所への効果

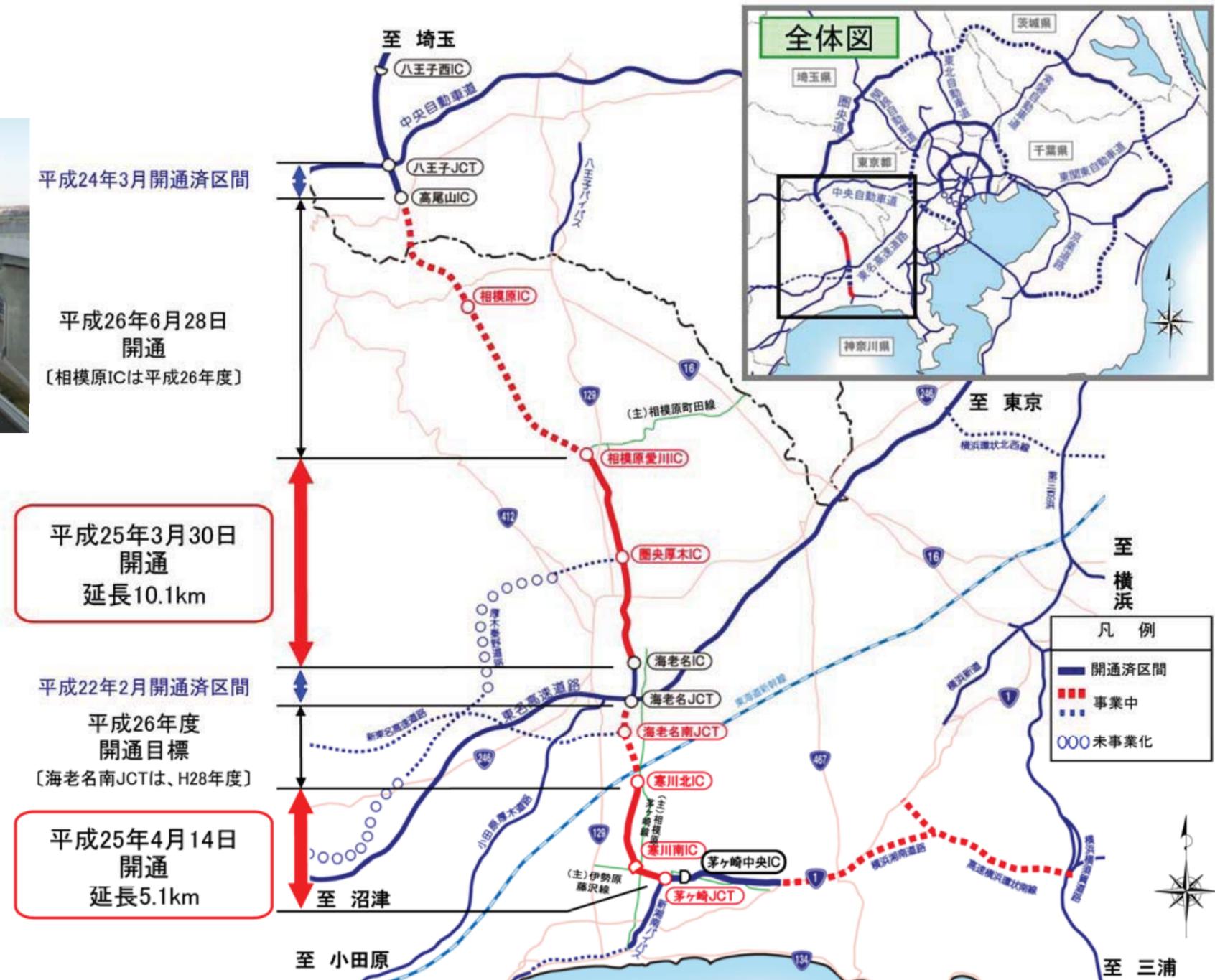
平成26年8月28日

2 圏央道(茅ヶ崎JCT～寒川北IC、海老名IC～相模原愛川IC)開通による効果

2-1 圏央道(茅ヶ崎JCT～寒川北IC、海老名IC～相模原愛川IC)の開通区間概要

○平成25年3月30日に海老名IC～相模原愛川IC間、4月14日に茅ヶ崎JCT～寒川北IC間の合計約15kmが開通。

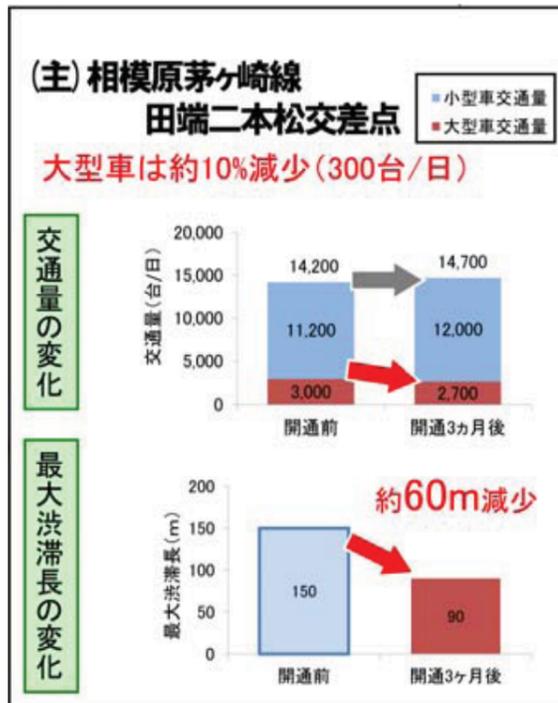
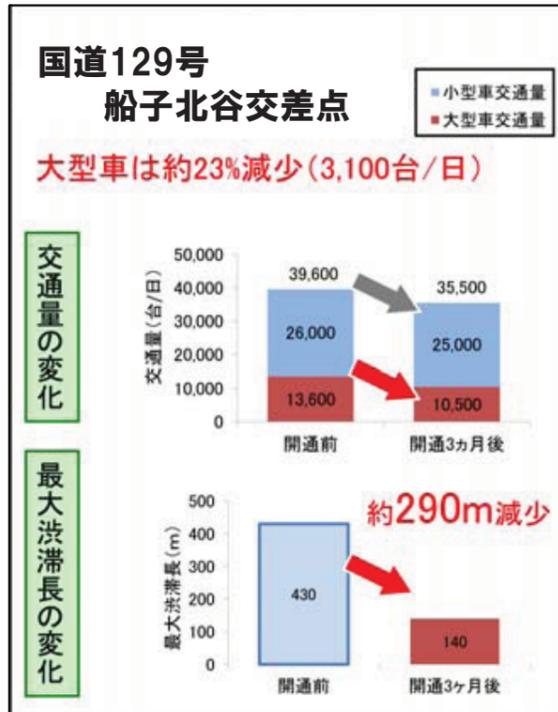
写真(圏央厚木IC付近)



2 圏央道(茅ヶ崎JCT～寒川北IC、海老名IC～相模原愛川IC)開通による効果

2-2 開通前後の一般道路の交通量と渋滞長の変化

○開通区間に並行する国道129号や(主)相模原茅ヶ崎線の大型車交通量が約1～2割減少し、渋滞が緩和。



交通量:
調査日の断面交通量の合計。値は百台単位で丸めたもの。

最大渋滞長:
1回の青信号で残ってしまう信号待ち車列の長さ。値は調査日の最大値で10m単位で丸めたもの。

調査日:
開通前:
平成25年2月19日(火)

開通3ヶ月後:
平成25年7月16日(火)

2 圏央道(茅ヶ崎JCT～寒川北IC、海老名IC～相模原愛川IC)開通による効果

2-3 圏央道開通による企業立地への貢献

- 圏央道の開通区間の沿線周辺では、新規物流施設や新たな機能を有する物流施設が操業を開始。
- 物流施設の進出に伴い、沿線工業地の地価も上昇。

相模原愛川IC周辺

- ヤマト運輸(株)厚木ゲートウェイ
- ・平成25年8月竣工
- ・延床面積:約9万㎡
- ・物流のスピードと工程の短縮を革新的に進化させる総合物流ターミナル



写真出典:ヤマト運輸(株) 厚木主管支店

相模原愛川IC周辺

- GLP厚木
- ・平成26年1月竣工
- ・延床面積:約10.7万㎡
- ・免震装置やバックアップ電源を導入し、顧客の事業継続性を確保



写真出典:グローバル・ロジスティック・プロパティーズ(株)

圏央厚木IC・海老名IC周辺

- 厚木金田物流センター
- ・平成25年7月竣工
- ・延床面積:約2.7万㎡
- ・周辺環境に調和した顧客ニーズに応える規模、機能を備える倉庫施設



写真出典:サン インテルネット(株)



相模原愛川IC周辺

- ロジポート相模原
- ・平成25年8月竣工
- ・延床面積:約21.0㎡
- ・マルチテナント型物流倉庫



写真出典:ラサール不動産投資顧問(株) 三菱地所(株)

圏央厚木IC周辺

- 日本レコードセンター-厚木三田DC
- ・平成25年4月竣工
- ・延床面積:約4.8万㎡
- ・音楽や映像産業向けにCDやDVDなどのパッケージソフトの物流



写真出典:日本レコードセンター(株)

厚木IC周辺

- ファッション・アパレルロジスティックセンター
- ・平成25年5月竣工
- ・延床面積:約1.7万㎡
- ・「ファッション&アパレル物流サービス」の重要拠点



写真出典:鴻池運輸(株)関東支店 厚木流通センター営業所

沿線工業地の地価上昇

経済への影響は地価にも表れた。県が9月に発表した基準地価によると、さがみ縦貫道が部分開通した厚木市の工業地は前年比1.6%上昇し、愛川町の工業地も1.5%上昇。ともに5年ぶりに上昇に転じた。

出典:朝日新聞(H25.10.16)

出典:
「インベスト神奈川」及び「インベスト神奈川2ndステップ」の活用による立地企業。
「インベスト神奈川2ndステップ」による立地企業一覧より作成(平成25年7月1日時点)。
神奈川県「インベスト神奈川」とは、企業立地を積極的に支援(低利融資、減税措置等)する制度。

資料:平成25年10月16日横浜国道事務所 記者発表資料より抜粋

3 圏央道(相模原愛川IC~高尾山IC)開通による効果

3-1 圏央道(相模原愛川IC~高尾山IC)の開通1ヶ月後の整備効果について

○平成26年6月28日に相模原愛川IC~高尾山IC間が開通。

※詳細は参考資料2

開通区間の概要

- ・開通区間 : 相模原愛川IC(厚木市上依知)
~ 高尾山IC(八王子市南浅川町)
(※相模原ICは平成26年度開通予定)
- ・開通日 : 平成26年6月28日(土)
- ・延長 : 14.8km
- ・車線数 : 4車線
- ・アクセス道路 : 国道129号(相模原愛川IC)、
国道20号(高尾山IC)

H26年6月28日
開通
延長14.8km

※相模原ICは平成26年度開通予定

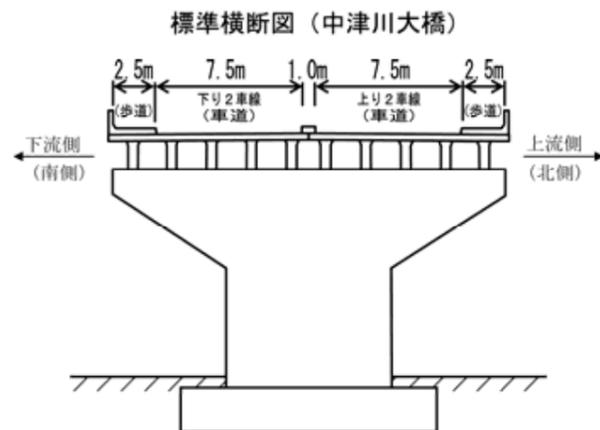


4 その他事業による主要渋滞箇所への効果

4-1 県道42号(藤沢座間厚木)中津川大橋の開通区間概要と主要渋滞箇所への効果

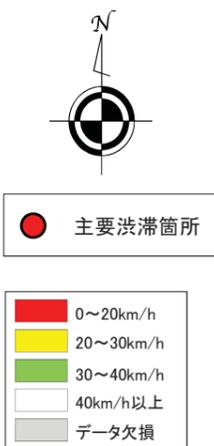
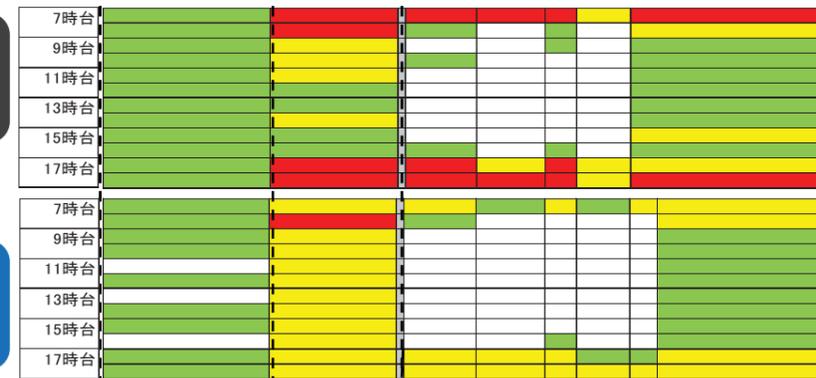
- 平成25年3月27日に、それまで暫定2車線で開通していた県道42号(藤沢座間厚木)中津川大橋が4車線で開通。
- 上り方向では、中三田陸橋上交差点(厚木市)～座架衣橋際交差点(座間市)間の朝ピーク時の所要時間が約2分(約27%)短縮。

○開通区間概要



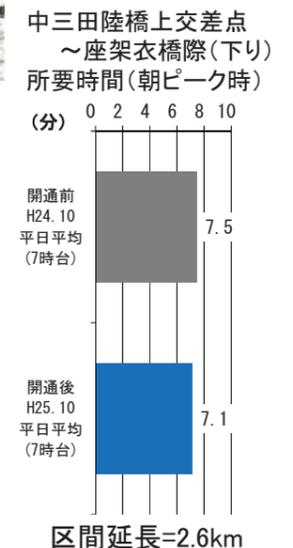
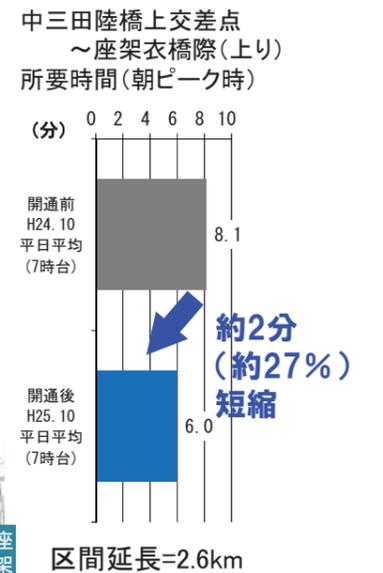
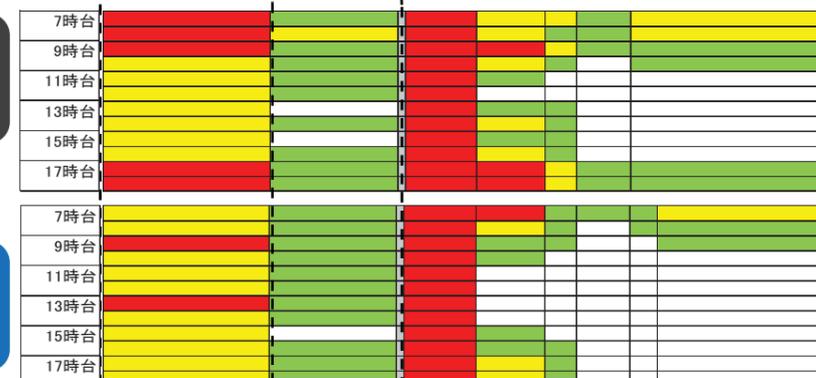
開通前
(H24.10
平日平均)
上り

開通後
(H25.10
平日平均)



開通前
(H24.10
平日平均)
下り

開通後
(H25.10
平日平均)



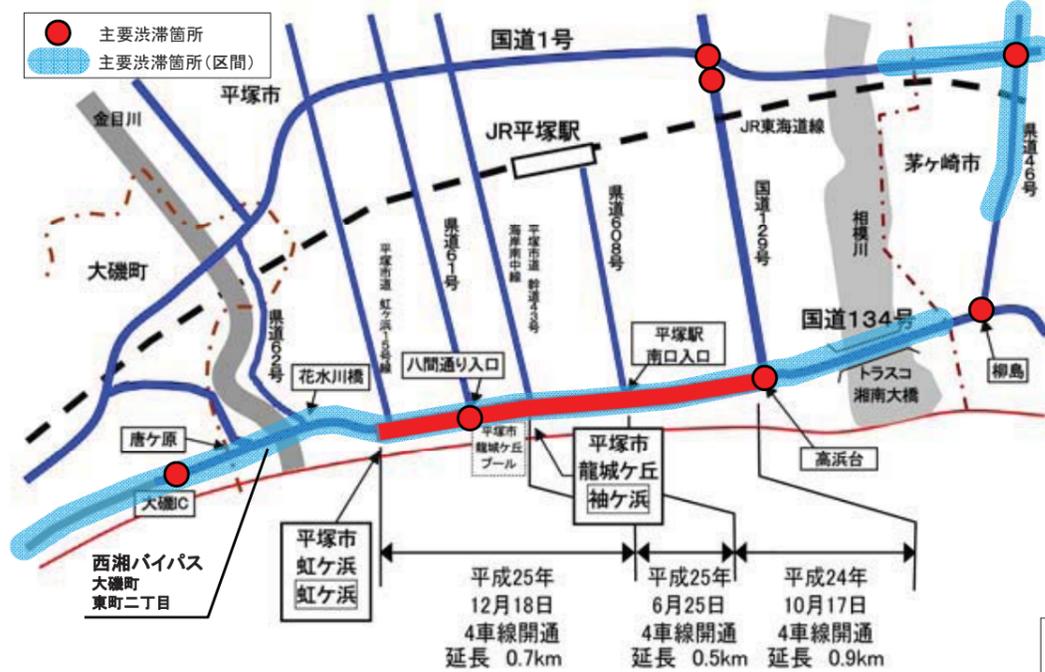
出典: 民間プローブデータ(H24.10,H25.10)
主要渋滞箇所(単独箇所)の評価については、前後1km以上となる範囲を対象とした。

4 その他事業による主要渋滞箇所への効果

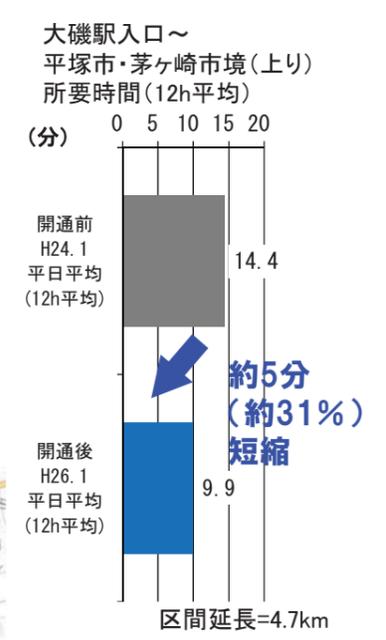
4-2 国道134号(平塚市高浜台以西)の開通区間概要と主要渋滞箇所への効果

- 平成25年12月18日までに、国道134号(平塚市高浜台以西)(高浜台交差点(平塚市)～虹ヶ浜交差点(平塚市)までの約2.1km)が開通。
- 上下方向ともに、①(仮称)大磯東インター～高浜台交差点(平塚市)間の旅行速度が改善し、昼間12時間の平均所要時間も短縮。

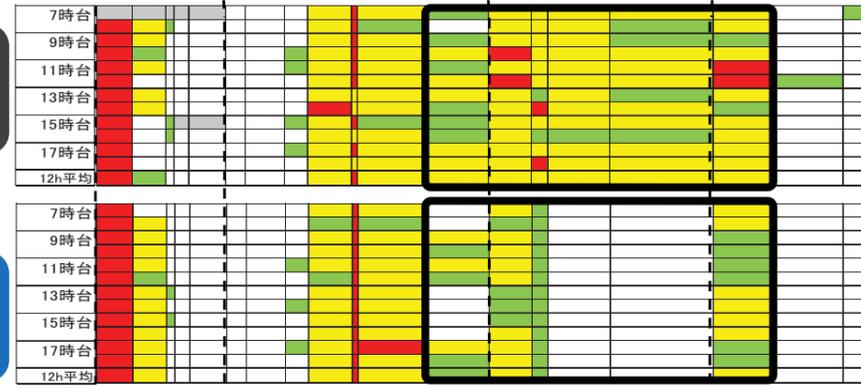
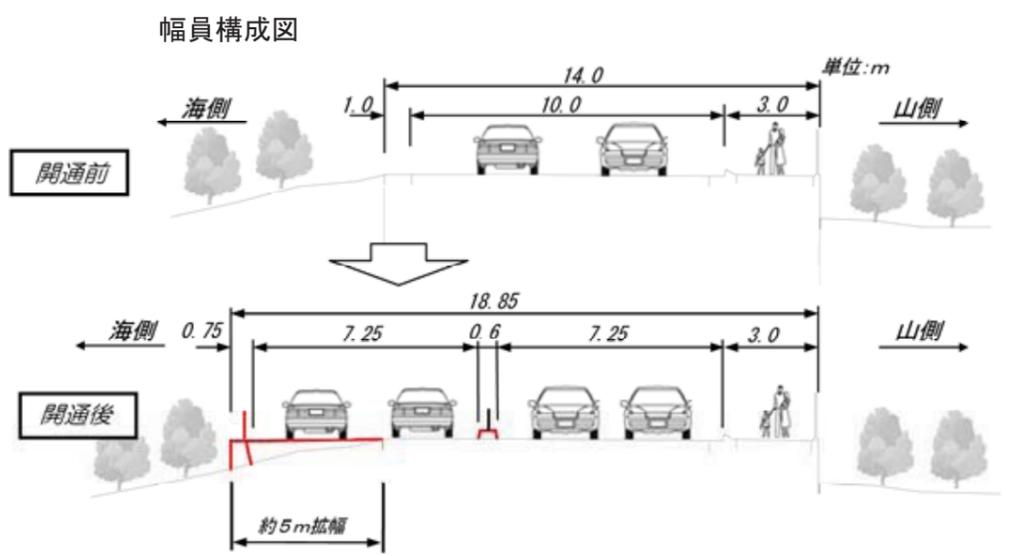
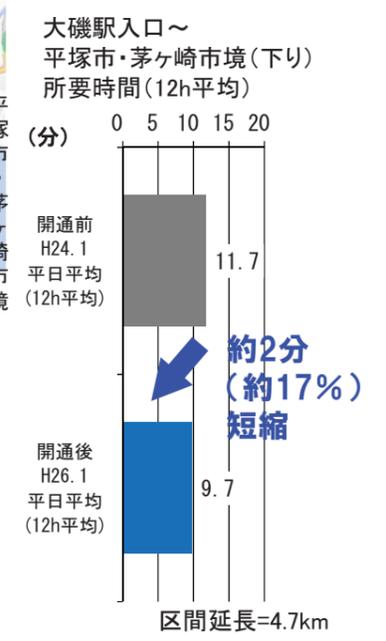
○開通区間概要



開通前 (H24.1 平日平均)
 上り
 開通後 (H26.1 平日平均)



開通前 (H24.1 平日平均)
 下り
 開通後 (H26.1 平日平均)



主要渋滞箇所(区間)の評価については、該当する区間全体を対象とした。

4 その他事業による主要渋滞箇所への効果

4-3 国道357号(東京湾岸道路)根岸地区の開通区間概要と主要渋滞箇所への効果

- 平成26年3月31日に、国道357号根岸地区(横浜市中区千鳥町～磯子区新磯子町までの約3.0km)が開通。
- 国道16号八幡橋交差点(横浜市、主要渋滞箇所)から、約15,000台/日が開通区間へ転換し、山下本牧磯子線側の渋滞が解消。

○開通区間概要 《位置図》



《現地写真》



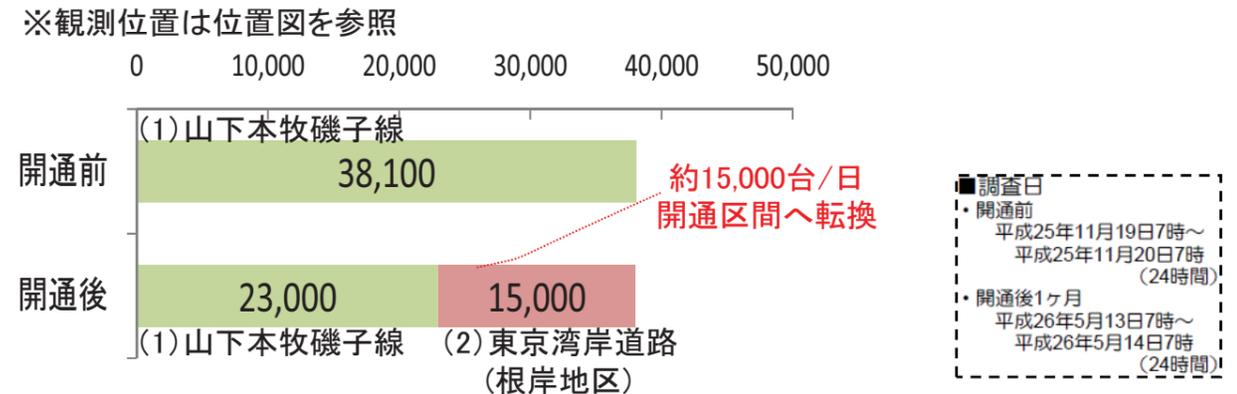
《標準横断面図》



開通区間の概要

- ・開通区間 : 横浜市中区千鳥町～磯子区新磯子町
- ・開通日 : 平成26年3月31日(月)
- ・延長 : 約3.0km
- ・車線数 : 4車線

○開通前後の交通量(山下本牧磯子線・東京湾岸道路(根岸地区))

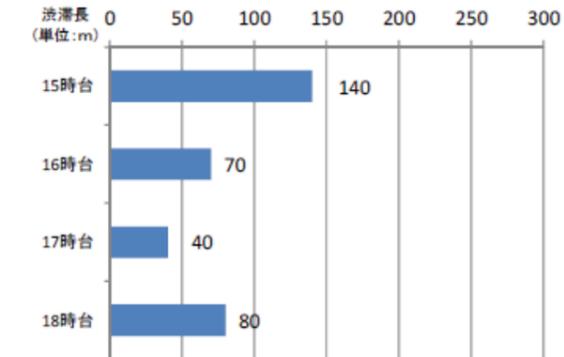


○開通区間に並行する山下本牧磯子線の渋滞長(八幡橋交差点流入部)

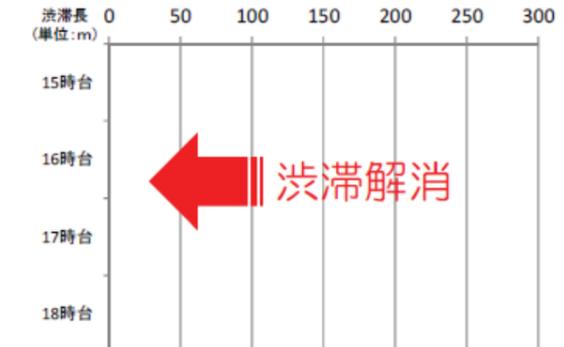
開通前: 平成25年11月19日



※下り方面・夕方(15時～19時)



開通後: 平成26年5月13日



資料: 平成26年6月23日横浜国道事務所記者発表資料より抜粋